

りょうぜん天蚕の会だより

【第 9 号】



発行責任者 りょうぜん天蚕の会 会長 柳沼 泰衛（電話・FAX 024-586-3004）

【 会長あいさつ 】

立春の候、皆様には益々ご健勝のことと存じます。平成17年2月に設立した「りょうぜん天蚕の会」は、この度9年目を迎えました。これもひとえに会員皆様の熱心な活動と関係機関のご支援の賜と厚く御礼申し上げます。

さて、当会の活動趣旨は、霊山の豊かな自然環境を活かし、野蚕である「天蚕」の育成と、その飼育体験交流や独特の風合いをもつ萌葱色の繭・絹糸の新たな加工や商品化による地域特産品の創成をはかり、活力ある地域づくりを推進しようとするものです。設立以来、これまで伊達市、伊達市観光物産協会、大日本蚕糸会、福島県関係機関等のご支援をいただきながら、会員一同一丸となって繭の生産、新商品開発に取り組むとともに、小学校等への観察用天蚕配布、県内外天蚕関係者との交流及び展示PR活動等を行っています。

24年度は原発事故に関係した課題が取り巻く中で約7,800粒の天蚕繭を収穫するとともに、「天蚕紬糸による布織物や和装装飾品」等の製作、展示販売などの活動を行いました。また新製品開発事業として「和・洋装の特殊用途の商品化」を実践するとともに「日本野蚕学会」「新潟県里なび研修会」「日本絹マーク認定品展示会」等に参加し、本会の活動状況を全国に紹介することができました。

25年度はこの成果と実績を基にさらなる前進を図るとともに、本会設立10周年を迎えるに当たり、記念事業を実施する考えでありますので皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。



10月6～7日 天蚕まつり（阿武急 保原駅）

平成24年度総会開く

～ 第8回通常総会 ～

3月4日(日)午後3時より、「りょうぜん里山がっこう」において約30名の出席のもと開催された。柳沼会長は挨拶で「東日本大震災に遭遇した大変な中で、例年通りの活動が出来た。伊達市の支援を得て本会のロゴマークが商標登録された。」と感謝の辞を述べた。また、来賓の霊山総合支所地域づくり課の安藤課長が「天蚕の会は霊山の地域活性化に大きく貢献している。」と祝辞を述べられた。

議長には長谷川貞夫氏が選出され、23年度の事業実績と決算報告、24年度事業計画案と予算案が原案通り承認された。その他「後継者対策」についての質問があり、八島事務局長から「霊山あぜ道通信」で「織り姫公募」をすることが報告された。

総会に先立ち天蚕繭の加工講習が行われ、取材に訪れた NHK 福島放送局キャスター本多真弓さんは、繭の美しさと製品の数々に強く興味を示され本会に入会された。

総会後は当学校「宿泊体験棟」に場所を移し懇親会が行われ、菅野公会員のフルート演奏と美酒に酔いながら終始和やかに懇親が図られた。



皇后様「天蚕の山つけ」「蚕に桑やり」

～ 皇室伝統の養蚕作業 ～

5月7日、皇居内の養蚕施設で「天蚕」の卵をクヌギの木に付ける「山つけ」の作業をされた。明治時代から皇后が受け継いできた伝統の養蚕作業である。

網で囲われた「野蚕室」で、それぞれ25粒の蚕の卵が付いた短冊状の和紙15枚を丁寧にクヌギの枝に巻き付けた。10日ほどで幼虫が生まれ、6月中旬から7月にかけて繭になる。
(5月8日 民友新聞参照)



6月26日、皇居内にある紅葉山御養蚕所で蚕に桑を与える「給桑」の作業をされた。

皇后様は「たくさんいただくんでしょね」「足りませんか」と話しながら、体長6センチメートルに育った日本純蚕種の蚕「小石丸」に桑の葉を与え、耳を近づけて桑を食べる音を聞いておられた。
(6月27日 民友新聞参照)



出来上がった絹糸は、反物や外国元首への贈り物の絹製品に使われる。

第18回日本野蚕学会に参加

～ 繭生産から商品販売までの一貫体制に評価 ～

9月8日つくば市「つくばサイエンス・インフォメーションセンター」において第8回日本野蚕学会が開催され、約40名が参加し、11名の一般講演（研究成果発表）があった。本会から八島事務局長と八島時男会員が初参加し、事務局長が展示品の製作過程と各商品の狙いの発表を行った。天蚕の商品は当会のみで、他はエリサン、ムガサンやタサルサン等の東南アジア地域の野蚕の布商品であったため、一段と天蚕の特徴が明らかであった。本会の商品は生産から商品化、そして販売まで一貫していることも会員から評価された。

夜の懇親会には30名程参加し意見交換に花が咲いた。福島放射線量と繭への影響、風評被害等質問が飛んだ。そして「福島で天蚕の集いを開催しては？」と提案した方もおり嬉しい話題であった。



研究成果発表状況



八島事務局長と八島時男会員が展示品の紹介



新製品開発事業による試作品完成！

～ フルート用の天蚕紬（つむぎ）織敷布 ～

今年度の新製品開発事業の新たな用途として、フルートを置くための紬織布が出来上がった。これは、本会会員のミュージックパーソナリティー菅野公氏から特注されたもの。

縦83センチ×幅14.5センチの織物（端ふさ付き）4組を制作し、2月末に納品した。これら最高級の織物は、近いうちに埼玉県や福井県の公氏のフルート仲間に届けられるとのこと。天蚕紬織りの魅力が全国に宣伝されることを期待したい。



フルート用の天蚕紬織敷布



全国の仲間に届けられる天蚕敷布(特製桐箱入)



天蚕の会で演奏する菅野公会員

天蚕商品の展示と体験会を実施

～ 多くの利用者が天蚕の紬に挑戦 ～

10月6～7日、阿武隈急行保原駅コミュニティセンターにおいて当会のショールやハンドバッグ等の商品展示と紬の体験会を実施した。伊達市観光物産協会が「テン（10）サン（3と蚕）の日」＝こじつけ造語＝として阿武隈急行フリー乗車の日に合わせて企画されたものである。天蚕ハイブリットショールが昨年度の福島県特産品コンクールにおいて奨励賞を受賞したことや今年度天蚕商品では日本で初めて絹業協会から「純国産マーク」使用を認められたことを広く市民に紹介する目的で実施された。

紬体験は会長他、奥山俊雄会員、菅野久代会員が指導に当たった。フリー乗車の日とあって朝から子供から大人まで多くの利用者が珍しい天蚕の紬に挑戦していた。



からむし会館・苧麻^(ちょま)交流館を訪ねて

～ 国の残すべき有形文化財に指定 ～

10月29日、会員11名参加して昭和村カラムシ交流館を訪ねた。今回の研修には伊達市森林公社の支援の下に行われた。昭和村のカラムシは「越後上布」「小地谷ちぢみ」の原料として国の残すべき有形文化財に指定されている物である。

しかし、近年の着物離れ、手間暇のかかる天然素材は非経済製品とされて敬遠されて衰退の一途にあった。昭和村では上布原料として出荷出来なかった原料材を用いた織の技法を今に伝えて来たことが評価され、国の支援を得るに至り、カラムシをベースとした交流館、織物会館、苧麻交流館(昭和村直売所)を一カ所に集合させた施設である。

今回の訪問は、カラムシ織物館の学芸員が「天然素材をベースにした展示」を企画し、その一環として「天蚕」を取り上げたことによるものである。素朴な原始的な織物であるが先人の知恵と技が凝縮された優れた織物に間違いなかった。天蚕商品の価格をどのようにするか議論のあった時、このカラムシ織の手間暇と貴重性・唯一性を参考にした経緯がある。

霊山町にもこの様な養蚕・天蚕をテーマにした施設が望まれるというのが参加した会員一同の感想であった。



からむし織りに見入る会員



からむし会館

ハウスのネット撤収、種の袋詰め

～ 今年度の最後の作業行われる ～

12月2日午後1時より、会員21名が飼育ハウスのネットの撤収、種の袋詰め作業を行った。ネットは最近降雪が少ないので全撤去をせず、ネットの腰に纏めることに留めたので短時間で終了できた。また、種の袋詰めでは150袋(150000粒)が計上された。

反省会は、里山学校に場所を移して行われた。菅野公会員のフルート演奏があり、新会員のために「天蚕音頭」の踊りまで飛びだして大いに賑わった。全員が「ふるさと」を合唱。これに合わせて安田恭子さんが手話の踊り、特別参加の石森さんの歌、富永さんのフルートも披露され異色の会となった。

ハウスネットの撤収作業



種の袋詰め作業



天蚕音頭を踊る



歌の石森さん、フルートの富永さん

綜^{そう}統^{とう}研修行われる

～ 経^{たていと}糸の重要性を改めて認識 ～

12月15日午後1時半より、奥山製作所において綜統の研修会が行われた。講師に自然染め工房の山根好子氏を迎えて会員9名が参加した。

予め、奥山・引地両会員が綜統に必要な台を手作りしてしてくれたので利便性が高まり作業効率が高まった。講師の模範実演に引き続いて、会員一人一人が体験して機織りにおける経糸の重要性を改めて認識した。



綜統を実演する山根講師と会員

天蚕布による「^{らくす}絡子」を披露

～ 霊山町下小国^{りゅうとくじ} 龍徳寺住職^{きゅうまいこう} 久間泰弘和尚 ～

12月2日、伊達市霊山町山戸田の曹洞宗成林寺（久間泰瑞住職）において役員会が開催され、この席で霊山町下小国の龍徳寺住職（成林寺副住職）久間泰弘和尚が天蚕布の「絡子」を披露した。萌黄色の絡子は黒の法衣に鮮やかで出来映えに満足されていた。

泰弘和尚は平成21～22年まで全国曹洞宗青年会長の要職にあり、22年には奈良東大寺において全日本仏教青年会千僧法要の導師を務めるなど多大な重責を務められた。

現在は、成林寺境内に設けられた「全国曹洞宗青年会災害復興支援本部」の現地部長として、全国から来ている僧侶達の支援活動をリードするとともに、震災各地の避難所に出掛け、被災者への行茶や心のケアを行っている。



左 天蚕^{らくす}絡子着衣の久間泰弘^{きゅうまいこう}住職

中 天蚕ジャケットの柳沼信子さん
(前号で紹介)

右 天蚕名古屋帯の久間カズコさん
(前号で紹介)



【^{らくす}絡子】：両肩を通して掛ける小型の袈裟のこと、五条衣の略装。曹洞宗では「曹洞宗宗制」「曹洞宗服制規定」によってその製法や着用法が定められている。

日本絹マーク認定品展示会に参加

～ 銀座三越で純国産 宝絹 takaraginu 展 ～

1月14～15日、日本橋三越百貨店において「日本絹マーク認定品」の展示会が開催された。この展示会は、大日本蚕糸会が主催する宝絹の商品と近年日本絹マークの認定を受けた商品を紹介し、織物業界、和服流通業界に対してPRして販路拡大・販売促進へ連携を図る目的である。本会から柳沼会長と八島事務局長がプレゼンターを務め、来店した多くの業者の関心を集めた。その中で、本会の天蚕の飼育状況を視察したい意向も伝えられた。



天蚕製品展示会場での柳沼会長



展示、実演状況

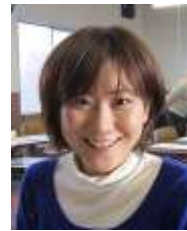
新会員紹介



西牧啓栄さん
(にしまきひろひで)
梁川町
農業



鈴木智美さん
(すずき ともみ)
霊山町
(埼玉県出身)
伊達市中川
地域支援員



本多真弓さん
(ほんだ まゆみ)
福島市
(東京都出身)
NHK 福島放送局
キャスター

参考記事

NHK 大河ドラマ「八重の桜」放映

～ 会津藩士の娘、新島八重の生涯 ～

2013 年の NHK 大河ドラマは東日本大震災の復興支援といった意味合いが込められており、「大震災以降、改めて“今やるべきことは何か”と考える中で出会ったのが、新島八重という人物でした。彼女は激動の時代の中でそれまで信じてきたものすべてを失いますが、生きることから逃げずに新たな一歩を踏み出します。その姿は、私たちに勇気を後押ししてくれるのではないのでしょうか。」

(製作統括の内藤慎介^{プロデューサー}談：NHK ウィークリーステラ特別編集版より)



主人公「^{にいじまや え}新島八重」とは

会津藩士山本家の娘。幼少期から非常に活発で男まさりな性格だった。裁縫よりも家芸の砲術に興味を示し、実兄の覚馬からは様式砲術の操作法を学んだ。慶応 4 年(1868)、鳥羽・伏見の戦いでの敗北を機に、薩摩藩・長州藩らを中核とする新政府軍から「逆賊」として扱われた会津藩。新政府軍の攻撃は日毎に激しさを増していく。戦火は会津各地そして鶴ヶ城にも広がり、籠城戦になった際には八重は髪を断ち男装。スペンサー銃を持って銃撃戦に参加した。

会津藩の敗戦から 3 年後の明治 4 年(1871) 26 歳の八重は、京都府顧問となっていた兄の覚馬を頼って母・佐久、姪・峰と共に京都へ。そこでは「知識」という新たな生きがいを得る。同じころ、覚馬の元に出入りしていた新島襄(同志社創立者)と出会い、明治 9 年(1876) 1 月に結婚。封建的な風潮の残る中、男女の平等を望む八重は、西洋帰りの夫を「ジョー」と呼び捨てにした。夫の襄はそんな彼女の生きざまを「ハンサムウーマン」と称したのだ。



家老「^{さいごうた の も}西郷頼母」は霊山神社宮司を歴任

西田敏行さん演じる会津藩家老西郷頼母は、文久二年(1862)藩主松平容保が京都守護職に就任することに反対し、「御免御叱」によって家老職を免職になり、城下の下長原村で隠栖した。が、慶応 4 年(1868)鳥羽伏見の戦いが始まると、頼母は再び家老職に復帰した。同年、白河の戦いでは総督として白河城を占領するが、西軍薩摩藩と激戦の末、城は陥落し西軍のものとなる。

頼母は藩主容保に新政府側に帰順をすすめたが意見が用いられず、城中で孤立化し、城外へ使者として出ることを命ぜられた。頼母は米沢→仙台→箱館(函館)に赴き、最後まで西軍と戦う結果となった。明治 2 年 4 月箱館の榎本武揚が投降すると、同年 5 月頼母も自訴して降伏する。

その後、東京に出たのち伊豆に滞在したが、明治 8 年 8 月、福島県東白川郡都々古別神社の宮司に就任する。明治 13 年 2 月、旧藩主容保が日光東照宮宮司になっていたのので、当宮の禰宜になって容保に仕えた。同 20 年、故郷会津若松に戻る。明治 22 年 5 月、士族会を創設し仮会長に就任。同月 9 日、霊山町の霊山神社宮司に補せられる。10 年後の同 32 年霊山神社宮司を依願免職する。

明治 36 年 4 月 28 日、故郷若松の長屋でひとり静かに死去する。

【 霊山神社宮司在任中は、高野金助会員宅に度々宿泊するなど、多くの記録が残されているとのこと。 】

会員の活動スナップ



総会にて



エゾノキヌヤナギの改植作業



ネット外し作業で一服



繭収穫作業で一服（館ハウス）



収穫作業の長谷川さん、引地さん



成虫と繭に見入る本多さん



収穫中の鈴木さん、八島さん、西牧さん



マスコミの取材を受ける会長



八城さん、菅野久代さん 繭に付いた葉を取って選別する作業



緑鮮やかな天蚕繭の数々



阿武急保原駅で天蚕まつり



伊達市復興物産展



大石小学校総合学習で天蚕繭工芸

会員の活動スナップ



ハイテクプラザ機織り研修



シルク会館の染織展に出展



新潟県十日町「里山保全」研修参加



繭収穫後の反省会(収穫量の報告)



霊山町ことぶき学習塾で会長講演



母蛾検査の八島時男さん



母蛾と蚕種の分け作業



検査前の母蛾の碎紛作業



だてTVの天蚕まつり取材



作りたてのコースジを胸に。キレイ！



取材の本多さんと八島事務局長



機織り中の八島恭子さん。



来客に製品説明する奥山さん。(保原駅二階)

